

7西のNST サテライトカンファレンスは、毎週火曜日の13:30からリハビリカンファレンスと合同でおこなっているため、大変大所帯です。呼吸器内科医、血液内科医、看護師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士と、参加食種も多岐にわたっています。呼内・血内で入院されている患者さんを対象としており、化学療法や放射線療法の影響で食事が摂りづらくなっている患者さんへの食事介入や、経腸栄養・静脈栄養を行っている患者さんの栄養メニューの確認などが中心となっています。他の病棟と違って消化管自体に問題のある患者さんが少ないので、食事内容は補食も含めて比較的自由に組み立てて提供しています。誤嚥性肺炎や、呼吸不全で人工呼吸管理をされている患者さんでは、さまざまな要因からなかなか栄養が進まず難渋するケースもあります。また、COPD や間質性肺炎で必要なエネルギー量は増加しているのに、呼吸苦から食べられない患者さんへの呼吸器リハビリにおける栄養管理も大変重要となっています。最近、リハ栄養という概念が広まっており、リハビリと栄養は切っても切り離せない関係となっています。7西ではリハ&栄養のタグをこれからも続けていきます。



患者さんの栄養管理には日々の観察・関わりが重要となるので、病棟スタッフ全員が栄養に対して高い意識・関心が持てるよう、毎週火曜日の昼のカンファレンスの時間を NST-リハビリ合同カンファレンスとしています。

7西には、がん化学療法や呼吸器リハビリテーションを目的とした患者さんが入院します。化学療法の副作用症状や、呼吸苦に伴う食欲低下など介入が難しい患者さんが多いですが、カンファレンスを通してスタッフは、栄養管理の知識を得て日々のケアに役立てています。(看護師)

投薬状況や検査値のモニタリングを行い、服薬指導においては嘔気や味覚異常など食事量に関わる内容の確認も行うようにしています。化学療法やオピオイド治療による嘔気や食欲不振が問題となることも多くありますが、抗がん剤の催吐性リスクや嘔気の種類に加え、個々の患者さんの背景も考慮して適切な制吐剤や食欲増進の薬剤選択に繋がる情報提供を心がけています。今後もカンファレンスを通して学ばせて頂きながら、多くの患者さんの栄養状態の改善に貢献できるように努めていきます。

(薬剤師)

近年、リハビリテーション栄養（以下リハ栄養）という言葉が聞かれるようになりました。リハ栄養とは、栄養状態の評価を行ったうえで、障害者や高齢者の機能、活動、参加を最大限発揮できるような栄養管理を行うことです。

低栄養の患者に栄養を考えずにリハビリだけ行っても、十分な効果が得られないどころか逆効果になることさえあります。

当院の入院患者さんにも低栄養の方が多く、7西病棟のようにリハビリスタッフと病棟看護師、NST が合同でカンファレンスを行うことは非常に有意義であると思います。(リハビリ)